

### 第3回学校運営協議会記録

1 日時 平成28年11月8日(木) 18:30~20:00 学校運営協議会

2 場所 学校運営協議会 北海道知内高等学校校長室

3 次第

(1) 学校概況説明

- ア 1学期を終えて(中間反省・成績について) 資料
- イ 進路決定状況について 資料
- ウ 学校行事について(中学校訪問、学校説明会、中学校向け進路説明会)

(2) その他

- ア 見学旅行(国内変更)について
- イ 次回開催日程について

(3) 学校長より

4 協議内容

今年度作成しました「学校紹介VTR」をご覧ください。町のイベントでの紹介や、学校説明会での上映など、学校の概要や生活を効果的に伝えることができました。今後も活用していきたいと思います。

委員 3年生の進路も大詰めとなり、続々と決まっているようで何よりです。学校からの説明を聞きつつも、活発な議論ができればと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局 1学期を終えまして、校内では中間反省が実施されました。

総務部からは、今年度生徒募集に向けた取り組みとして、パンフレットの作成や、説明会の運営、地区懇談、PTA交流会等の運営を概ね円滑に実施することができたとのことでした。教務部からは、昨年大きく改変しました内規の実稼働がはじまり、細かい部分の修正をしながらも、学習面についての効果は出始めているとのことでした。

生徒指導部からは、次年度からの「ポロシャツ」の導入が概ね軌道にのりました。また遅刻生徒が増えていることもあり、働きかけをしていかななくてはならないとのことでした。

事務局 1学期期末考査を終えまして、成績ができました。

各教科の平均点と成績不振生徒の関係を見てください。年度当初に先生方に伝えました通り、概ね良好な関係性が保たれている結果となっております。若干、平均点が低く、29点以下を獲得した生徒の多い教科がありましたので、会議の中で原因等を確認しました。

成績会議資料各教科の評価平均をご覧ください。基本的には評価平均が10段階において5以上になっていることが望ましいのですが、5ぎりぎりや高く評価されている科目について聞き取りと共通理解がはかられました。

成績不振生徒数については、昨年の同考査において、全て低下しました。今年度中間考査と比較すると増加傾向にはありますが、昨年より増加率は低下しました。

成績不振生徒への対応については、学年や教科ごとに対応を確認しました。特に同教科内で連続して29点以下をとっている生徒については、考査ごとの結果にとられると見落とす可能性があるため、教科内で経過を観察していくことを確認しました。

次の2学期中間考査にむけて、考査1週間前に校内において自習のできる環境を整え、学習

習慣作りにつなげようと思っております。考査後、校内の体制の中で学年末考査へ向けた手だてを企画していきたいと思っております。

事務局

3 学年の進路決定状況です。

概ね順調に希望した進路先への決定ができております。自衛隊、消防、役場等の公務員関係、指定校推薦を含めた進学希望生徒も概ね良好な結果となっております。また、今年度センター試験を受験する生徒は4名となり、夏の勉強合宿からモチベーションを維持しながら勉強に励んでいます。課題としましては、現在も大きな成果となっております、ブロードバンド予備校の活用の方法や幅を広げていきたいという点です。場所や時間、使用方法等の工夫をすればもっと効果が出るのではないかと感じております。

2 学年については、海外見学旅行の中止から、国内見学旅行実施へのスムーズな移行のために学年団が計画を進めております。限られた範囲ではありますが、生徒の充実感につながる見学旅行にしたいと思っております。

3 学年については、2 学年の途中から、また3 学年になってから担任の変更がありました。学年の先生の編成等の大きな変化の中、現在に至りますが、落ち着いた学校生活を送ることができています。

生徒募集では、松前中学校、木古内中学校、福島中学校に訪問し、学校説明会に参加しました。各地域の高校も生徒募集に積極的な中、本校の特色を反映したプレゼンテーションができたと感じています。

町としては、世の中の動向と教育界の大きな質的転換へ向けた「英語能力の向上」と、合わせて「教員の指導力、授業力の向上」を見通して様々な企画が立案されています。

委員

生徒募集については、様々なところへ出向いていくのは非常に良いことだと思う。町の協力も得て、交流センターや下宿等の充実もはかられていることも好条件として紹介できる。進路の紹介として、具体的な進学結果や就職結果をPRしていきたい。

委員

運営委員は具体的に学校の一助となるために何をしていけばよいのでしょうか。

事務局

次年度は具体的に、講話をしていただいたり、講師を探していただいたり、また、地域の生徒が地域の産業を知るという取り組みにも協力していただきたいと思っております。特に生徒に職業観が育まれるような具体的なキャリア教育を実践していく必要性を感じていますので、是非協力していただければと思っております。

国や道の課題として、様々な人の経験を生徒へ還元していただくといった、総合学習の中で具体的なキャリア教育を実践していく必要性があります。今後ともご協力をお願いしたい部分です。

委員

せっかくの町立高校の良さを生かして、小中高の連携がとれたキャリア教育推進が良い。

委員

キャリア教育、職業観といった中で、将来のために、生徒達には、とにかく我慢することの大切さを知ってほしいと思う。

委員

ニュース等で見ていると、希望の大学に進学し、希望の就職先に就職しながらも、様々な課題に直面し、苦勞をしている若者が増えていると聞く。職場での人間関係、ストレス耐性、奨学金の返済等、希望が叶ってもその先に何が待ち受けているかを想像するのが難しいのかもしれない。大学に入学させるだけ、就職させるだけではなく、現在一般的に働いている人たちの話をストレートに聞かせていく必要性も感じている。学校関係者ではない、第三者の話を聞く

など、外部の方々に出会わせる経験が良いと思う。

実際に職場の人間関係や奨学金等の問題は、保護者にも話せないことが多いことから、保護者と生徒の関係の中に、教員が一步踏み込んでコミュニケーションをとっていくことも望まれるのではないと思う。そのためにも先生方は大変であるが、レベルアップが求められるのかもしれない。

本校の規模だからこそ、町立だからこそできる価値ある取り組みを考えていきたい。先生の顔も、生徒の顔も、保護者の顔も見え、声も聞きやすいので。そして、地元の評判の良い学校にしていかななくてはならない。地元へのPRを大切にしていけると良い。町の声はどのような感じなのか。

委員 実際には、保護者は自分の子が学校に通ってないと興味は湧いてこないのが現状です。来てみないとわからないし、わからない以上は、昔の本校のイメージが強く残っている。しかし地元の方々は見ていないようで見ている。もちろん見えているようで見えていないこともあるが、だからこそわかりやすくPRしていくには、校内の平均化を上げていくよりも、進学の実績づくりも大切かと思う。

委員 「町に子どもがいる」ということが実は素晴らしいことで、そこに学校があり、活気が生まれる。郡部の地域が疲弊していく中、町を超えて「地域」としてとらえていかななくては、町に活気は戻ってこない。

事務局 部活動も大きな話題性の一つと感じておりますが、今後は、進学実績も同じように話題性の一助になるようにしていきたいです。

委員 高校のなくなった地域は感じる人がたくさんあるが、高校のある地域は感じ取れなくなるのでアンテナを張っていくと良い。

委員 一方で、高校側の意識が上昇し続けると、ついていけない生徒も発生する。せつかくの地元の高校への入学が叶わないという意識を持たせないようにしたい。どんな子でも育てて卒業させるとい本校の良さと意識向上のバランスをとっていく必要がある。

委員 高校は自分を知って、自分の勉強の仕方を覚えていく時期だと感じる。これを見つかることができれば、社会で通用する。

委員 バス停が老朽化している。明るさがなく、気温が低くても、歩道に立っている。バスが高校前にきてもらいたいくらい。冬になるとつらい。朝は高校前まで来るが、夕方の使用は高校生が大半であるが、一般利用者の方々もいるので交渉の余地がある。

事務局 今回も活発な意見交換ありがとうございます。貴重なご意見を学校運営にも反映させていきたいと思えます。

さて、昨今運営協議会、コミュニティスクールの必要性がいわれ、活動に注目が集まる中、本校の運営協議会はしっかりとみえる活動ができていると実感しております。教育界全体的に見て、活動としては、高等学校よりも、義務教育の方が進んでいるようです。性質上、義務教育の方が地域に存在する学校が多いことから進めやすいのかもしれない。

今後この運営協議会において、学校経営改善のための議論の循環がなされていくことを期待しています。